

# 種雄牛の能力調査

富塚 治 郎

## 1. 名前及び血統

カーネーションモデルマスター号

血統登録番号 31924 HCAJ

高等登録番号 339 HCAJ

生年月日 昭和26年3月8日

体格審査得点 85点

産地 カーネーション牧場

血統

父 カーネーションプロフェッサー  
No. 1054493 HFHB

ハルローズプログレッサー  
No. 808292 HFHB  
カーネーションコンダイクヘイローラツシ  
No. 2638045 HFHB  
35才 365日 3×  
15995ポンド  
651.1ポンド 4.1%

母 カーネーションモデルホームステッド  
No. 1935598 HFHB  
7才 365日 4×  
26833ポンド  
1022ポンド 3.8%

ガヴァナーオブカーネーション  
No. 629472 HFHB  
カーネーションシンデレラモデル  
No. 1639659 HFHB  
65才 365日 4×  
31492ポンド  
1119.6ポンド 3.6%

## 2 経 歴

本種雄牛は米国カーネーション牧場で生産されたもので、昭和27年3月輸入され引き続き当場にけい養している。昭和27年11月より人工授精に供用し、昭和32年12月までに937頭に授精し、雌140頭雄137頭を生産している。入場後発育順調であつたが昭和31年11月流産に罹患し軽度の後脚麻痺症を残し約1ヶ年間供用を中止したが32年12月より再び人工授精に供用している。

産子中高等登録牛に登録された娘牛は4頭、手続中のもの1頭、能力検査中のもの6頭である。

体 各 部 の 発 育

年令	体高	十字部高	座骨高	体長	胸深	胸巾	尻長	腰角巾	臑巾	座骨巾	胸囲	管囲	体重
1年	126.3	129.2	—	142.8	64.0	40.0	50.0	43.6	46.9	33.6	175.0	20.0	430.0
2 "	145.9	143.4	135.9	178.9	79.2	56.2	62.0	56.4	57.0	43.0	223.0	23.0	860.0
3 "	152.0	146.3	137.2	189.6	86.4	59.2	64.7	59.5	63.0	44.2	241.0	23.5	1060.0
4 "	152.5	148.0	140.3	191.5	87.2	63.8	65.0	63.0	63.6	47.5	242.5	23.8	1140.0
5 "	155.3	149.7	143.3	196.6	90.6	65.9	66.0	63.4	64.1	47.9	247.0	24.3	1140.0

3 一般外貌

本牛は体積があつて体軀よくしまり種牡牛としてよくその雄大性を具えている。顔がやや長くしまりのないきらいがあるが、一般に品位がありとくに頸部より前軀にかけてはよく鋭角性をあらわしている。前胸部がややさびしく充実を欠ききらいがあるが、胸深く肋張りすぐれ、胴延びもよく中軀はすぐれた体積を示している。

尻長、腰角巾、座骨巾共に充分であつて後軀はよく充実しているが尾根部及び尾がやや太く粗野な感がある。腹下静脈は太さ中等であるが孔器に於て乳頭の配列がやや前後に狭い感がある。皮毛、蹄、角等の は良好であるが皮膚やや厚く他の点に比し可成り見劣りがする。

4. 体各部の測定値(S. 33. 2. 6年11月)

体高	155.6 cm	胸深	91.0	臑巾	64.4
十字部高	149.8	胸巾	66.4	座骨巾	48.2
座骨高	143.8	尻長	66.0	胸囲	250.0
体長	198.3	腰角巾	63.6	管囲	24.3
体重	1120 Kg				

## 5. 子牛への遺伝力

### イ. 外貌上への影響

22組の母娘牛について比較調査して見たが本牛の遺伝力が強くあらわれている部位は顔、頭頸、肩への線及後軀にあつて、顔は比較的長く出るが、頸部から前軀への鋭角性がよく出ている。又尻長、腰角巾、腹巾、座骨巾はすぐれ後軀の充実性は高まつている。乳房の質は良好に出て来るが乳頭の配列が巾は可成りあるが前後に狭いものが多いようである。胴延び筋張りはかなりすぐれているものが多いが胸深、胸巾は充分でないものが多く全般に体積の点ではすぐれた遺伝力があるとは思われない。全体の品位は向上するが皮膚、皮毛の薄くやわらかいものを多く期待することは無理なようである。

### ロ. 泌乳能力への影響

4組の母娘牛成年型3回搾乳 305日換算平均能力

	乳 量 Kg		乳 脂 量 Kg		乳 脂 率 %	
	平均	範囲	"	"	"	"
母	65269	71616 ~54481	23.11	261.8 ~202.9	3.54	3.72 ~3.28
娘	77174	82463 ~69083	26.12	283.8 ~229.5	3.38	3.44 ~3.32
差	+11905		+30.1		-0.16	

母牛の乳量を約1,000Kg向上させているが、乳脂率に於て約0.16%の減となつている。尚これは能力検定中のものを合せて考えると若干の相違が出て来ることが予想され、乳脂率については必ずしも低下せしめていたとは考えられない。

## 6. 能力指数

ヤープ能力指数 (305日 3×)

乳 量 89079Kg

乳 脂 量 291.3Kg

乳 脂 率

## 7. 参 考

本牛生産子牛の成熟率の調査

本牛によつて生産された子牛の発育状況を体高の成熟率曲線により調査し父牛、及畜試標準

と比較して見た。成熟率曲線は羽部氏の式を使用した。即ち

$$\log(100-y) = a + bx$$

$y$  = 成熟率,  $x$  = 月令

上式で恆数  $b$  の絶対値を求め比較した。

区分	雄	雌
子牛平均	+0.03086	0.04042
父牛	0.035396	
畜試標準	0.02853	0.04142

雄に於ては父牛よりやや發育速度は遅いが畜試標準よりは發育速度は早く、雌に於ては畜試標準よりやや發育速度は遅いことになった。

このことより一概に子牛が所謂「おくて」であると云うことは云えないが、一般的な傾向として子牛の生産者が「おくて」な牛であると云うことに結果的に一致している。